

事務事業名		高齢者福祉タクシー券給付事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり					担当係	高齢福祉係	担当課長名	片柳利幸	
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 自立支援サービスの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	4930	一般	3	1	3	高齢者福祉タクシー券給付事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成3年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市高齢者福祉タクシー事業実施要綱					
	事業区分						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	事業区分						実施方法		一部委託		
事業区分						事業分類		現金・現物給付事業			
事業区分						リーディングプロジェクト		該当なし			
事業区分						市長マニフェスト		2-9			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者世帯の方がタクシーを利用して医療機関に行く場合、料金の一部を助成する。一人につき1枚400円のタクシー券を年間60枚交付する。		75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者世帯の方がタクシーを利用して医療機関に行く場合、料金の一部を助成した。						
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
交付人数		人	5,345	5,501	5,600			
交付枚数		枚	309,390	318,690	320,000			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者世帯の方		対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
対象となる高齢者数		人	21,205	21,579	21,953			
タクシー券利用枚数		枚	61,877	56,384	58,000			
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
75歳以上の高齢者と70歳以上で一人暮らし又は高齢者世帯の方がタクシーを利用し医療機関に通院する場合の補助券を交付し、利便を図ることにより健康維持を支援する。		成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
対象者におけるタクシー券交付者の割合		%	25.2	25.5	25.5			
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)								
自立した在宅生活を送れるようにする。		上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
在宅福祉サービス利用者数		人	1,526	6,934	7,000	7,200	7,400	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
事業費の内訳	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		27,715	27,200	28,430						
	事業費計(A)	千円		27,715	27,200	28,430	0	0				
投入量	印刷製本費	千円	259	257	540							
	電算委託料	千円	74	77	90							
	福祉タクシー券給付費	千円	27,226	24,809	27,800							
	賃金	千円	156	1,824								
	共済費	千円		233								
	人件費	千円		778	788	788	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円		28,493	27,988	29,218	0	0					

事務事業名	高齢者福祉タクシー券給付事業	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課	担当係	高齢福祉係
-------	----------------	-----	-------	-----	---------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成3年度から、高齢者の通院について利便を図り、健康の維持・推進を図るため開始された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口が年々増加している。タクシー券交付対象者も年々増加しているが、平成20年度後半から路線バスの運行が始まった。今後、路線バスが市内全域で運行されるようになれば、タクシー券の見直しも必要になってくる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市議会議員から医療機関に行くときだけでなく、買い物でも使えるようにしてほしいという要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	高齢者の通院のための交通手段確保のためタクシー料金を補助することは、健康を維持することにより高齢者の自立を促し、政策体系と結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	独居や高齢者世帯が増加しており、通院のための援助をすることは、高齢者が健康で活動的であるために必要であり、市で行うことが妥当である。タクシーの運行は民間に委ねて実施している。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	医療機関を利用する高齢者は多く、また、路線バスが市内全域を走っているわけでもなく、バス停が遠いという地域もあり、現状では、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	医療機関に行く高齢者の足として多くの利用がされており、事業の成果は充分に出ている。タクシー料金の利用者負担額を考慮すると、現実的には利用できる地域に限られ、また、全地域を同等の個人負担とすることは困難なため、成果向上の余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入				
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	路線バスが整備されれば、タクシー利用者が減少すると予想していたが、バス事業が始まって減ることはなかった。一人あたり年間400円の助成券を60枚であり、必要最小限の数字であり事業費の削減余地はない。人件費についても必要最小限の人数で対応しているため、削減できない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である		理由・改善案	医療機関にかかる高齢者が利用するタクシー料金の一部補助であり、個人負担がある。受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
今後の高齢者、要介護支援者の増加、独居や高齢者世帯の増加などを考慮すると、廃止・休止はできない。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					